

大潟高柳線の整備促進を！

一般質問で求めました

3月議会の一般質問で、私は主要地方道大潟高柳線の整備促進、畜産危機、地域自治区と地域協議会をテーマに質問を展開しました。今号は大潟高柳線の質問の要です。

【橋爪】昨年の3月16日吉川区川谷地内で発生した地すべり災害の現状と復旧工事の今後の見通しについて、県から最新情報としてどのような説明を受けているか。また、県への働きかけはどのようになっているか。

【中川市長】県は、昨年5月上旬に地質調査に着手し、7月から地すべりの観測を行っている。復旧に向けた設計に必要な十分な観測データを得る必要があることから、今春まで観測を継続している。昨年11月の県による地元関係者への説明会においては、地すべり観測を継続中であ

あり、地すべりの動きが収束していることを確認した後、地すべり対策や復旧方法の検討を行う旨の報告があった。

市としては、吉川区及び柿崎区総合事務所が窓口となり、従前の生活を取り戻したいと望む地元の意向を県へつないでおり、引き続き早期の復旧を県に働きかけていく。

【橋爪】復旧工事をするにあたって、地下水の動きもきちんとデータをそろえたところまでいかないとい法を定めることもできないし、復旧工事に取りかかることもできないというところだが、見通しとして、設計がいつごろになって、工事は一体いつから始まって、いつごろ終わるのか。

【都市整備部長】調査の方はまだ継続中だ。その調査が終わって、見通しが立てられるような状況になれば、地域の皆様にしっかりと説明いただくよう、県に働きかけていく。

【橋爪】こういう災害が起きたとき、行政は被災者、関係住民に、しっかりと寄り添うことが大事だ。昨年、災害が発生した時、直ちに市長が現地に行き、被災者の激励もされたが、一年以上たった今、市長みずから再び現地に足を運んでいただいて、「いま、こんな状況になって

ます。県に対しては、速やかに皆さん方が通れるような状況になるように、市としても全力で頑張ります」というところを行動で示していただきたい。

【市長】今後何の日程を検討したい。



【タネツケバナ】(再掲) アブラナ科の越年草。漢字で「種漬花」と書きます。田んぼの畔などにあります。草丈は10センチ～30センチ。水田の雑草ではありますが、近くで見るとかわいい感じですよ。果実は棒状となり、上を向いています。花期は3月～5月。花言葉は、「勝利」「不屈の心」「燃える思い」など。写真は、吉川区代石にて17日に撮影。

【橋爪】大島区藤尾と柏崎市石黒間は、積雪が1・5メートルを超えるると通行止めになる。雪崩防止柵などの整備を促進し、冬期間も通行可能となるよう県に働きかけを強めてほしいが、市長の見解を聞きたい。

【市長】市と地元町内会において、冬期間も通行可能となるよう県に対し、雪崩防止柵の整備要望を平成26年度から行っている。これを受け、県では令和元年度に最も雪崩発生危険が高い箇所から雪崩防止柵の整備を進めてきており、約200枚の柵の整備促進について、県へ働きかけていく。

【橋爪】あとどれぐらいの整備をすれば、冬期間、ずっと道を割って走らなくて、通行できるようになるのか。

【都市整備部長】まず雪崩の調査をしっかりとやっていかなければならない。あと、雪崩防止柵がどれぐらいあれば、「条件付きの除雪区間」が解除(冬期間ずっと除雪)になるかという情報まで聞いていない。

【橋爪】何かゆっくりしてますね。日曜日に藤尾に行ったら、センターで柏崎市石黒の人たちと味噌づくりの経験交流をされていた。冬期間、ずっと通れるようにしてほしいというのは、地元の住民が、本当に切実に思っていることだ。雪崩の調査をするというのとはわかる。調査をして、

どれだけ雪崩防止柵が必要か(考える)というのわからない。でもそういったことは、ちゃんと計画を立てて、進めてもらいたい。そして、その計画見通しについても、しっかりと住民に説明してもらいたい。

【市長】昨年、道づくり計画を作った。そこには、地域がつながる、暮らしを守る、雪とともに暮らす、など基本方針が6つある。これだけの計画を作るのであれば、やっぱり地域の住民の皆さん方が安心できるような、道路計画を作らないとまずいんじゃないか。いま言ったようなことも含めて、ぜひ県に働きかけ、計画を早めに出していただいて、地元

の皆さんからの要望にこたえて、いつときも早く整備をする、その方向性を示してもらいたい。市長、これはあなたの仕事です。やっていただけますね。

【市長】県にもいろいろ予算上の課題もあると思うが、私としては、市民の生活が守られるように、最大限力を尽くしていきたい。できるだけ早く調査をして事業を実施していただけるように最大限の力を尽くしていきたい。

【橋爪】この路線整備についてはもう一つ、大事なことがある。柏崎刈羽原発の避難道路の一つになりうる道だということを認識し、ぜひ県に働きかけていただきたい。

はしづめ法一の活動レポート

No.2102 2023.3.26
 発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
 Tel 025-548-3628
 通じないときは 090-5392-1961
 E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp
 URL http://www.hose1.jp/

ブログ「ホーセの見である記」はこちら

橋爪法一 検索

春よ来い

第七五〇回

一枚の写真

三月十一日の朝、長女が見せてくれた一枚の写真がずっと気になっていました。

写真は、わが家の仏壇の掃除をしていた長女が仏壇の引き出しの中から見つけたものです。引き出しには、写真の他、香典帳も入っていました。

見つかった写真は、高崎の伯母（故人）と伯母の孫、ひ孫の三人と思われる写真です。車イスに腰かけた伯母は真ん中、他の二人は伯母の両隣に立っていました。

正直言って、伯母の顔はよくわかっていませんでしたが、他の二人については、すぐに思い浮かびませんでした。ただ、三〇代と思われる女性に従姉に似た顔立ちでしたから、伯母にとつては孫にあたる者だろうと推測できました。

数日後、高崎市に住む従姉に電話を入れて、写真のことを訊（き）きました。従姉によれば、この写真は初めて見た、孫（伯母にとつてはひ孫）のヒナちゃんの七五三の時のものに間違いのないとのことでした。たしかに赤、黄、緑の花が描かれた着物は七五三で着るものに見えました。

ヒナちゃんは高校生の時にわが家に泊りに来て、尾神岳と一緒に登ったことがありましたので、よく覚えています。でも、小さなころの姿はほとんど記憶になく、着物を着たかわいい子が同一人物だという判断はできませんでした。

どうあれ、仏壇の中から出てきた写真は、いまから一八年前のものであることがはっきりしました。でも、なぜ、この写真がわが家のアルバムがある場所ではなく、仏壇の引き出しの中に入っていたのか、不思議でなりませんでした。

家族に写真のことを訊いても、知っている者は誰もいませんでした。となると、父と母のいずれかです。ただ、母の性格からいって、私たちに内緒にして、写真をしらべておくとは思えませんでした。

残るは父だけです。父が写真を見て、気に入って、大事にしまっておくことはあるかも知れないと思いましたが、それでも、「なぜ、仏壇の引き出しの中に」という疑問は消えませんでした。

それから、一週間ほどの間にいろいろ考えました。父が仏壇にしまっておく必要があったとすれば、その理由は何だろうか。ひよっとすれば、写真の裏に何かヒントがあるかも知れないと思い、調べました。でも、そこで見えたのは、「写真屋さん45」という文字だけです。時の流れで、書いた文字が消えたとも思えませんでした。

もう一度、写真がどういう写真だったかを振り返るなかで、私が出した結論は、「父は祖父・音治郎に伯母や子どもたちの写真を見せたかったのではないか」ということです。

それならば、仏壇の前に置けばいいのではないかと思われることでしょう。仏壇の前にはなく、仏壇の引き出しの中に入れたのは、おそらく父の病気がそうさせたのだと思います。

いまから一八年前というと、父が亡くなる四年前になります。父はこの頃から体力が急速に衰え、物忘れも一気に進んでいきました。

忘れることができないのは、父に牛の工サくれを頼んでおいたのに、まったく与えてなく、牛たちが鳴き叫んでいたことがあったことです。牛については一生懸命勉強して熱心だったにもかかわらず、父は病気ですっかり変わってしまった。

改めて伯母たちの写真を見たら、孫、ひ孫が伯母に寄り添う姿がとても素敵でした。この写真を祖父・音治郎に見せるためには仏壇の前ではなく、仏壇の引き出しの中に入れて方が確実かも知れない。父がそういう判断をしたとしても不思議ではありません。父の命日はもうおぼろげです。

年金者組合のつどいで終活学ぶ

年金者組合上越支部の「春のつどい」が11日にあり、1時間ほど参加してきました。

注目したのは終活懇談会です。TさんとSさんが身内の死にともなう葬儀や各種届けなどの体験を語ってくださいました。とても参考になりました。



ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	3月15日(水)	3月22日(水)
上越南消防署	0.053	0.053
上越北消防署	0.047	0.047
新井消防署	0.050	0.050
頸北消防署	0.050	0.047
頸南消防署	0.060	0.063
東頸消防署	0.040	0.047
名立分遣所	0.063	0.050
高士分遣所	0.053	0.053

直江津の三ハ市で冬期間休業ことなくお店を開いていた八百屋さんがいくつかあります。これはその内の1軒を描いたものです。

いつも夫婦仲よく、笑顔で商売されています。ふたり離れて立っておられましたので、真ん中によってもらいました。

